



育てよう！子どもの問題解決力

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 園長 田中啓昭

問題を解決する力

今回は、人間が生きていく上で大切な能力のひとつである「問題解決力」についてお話しします。

今の若い人に決定的に足りないなど感じるのが、自分自身の力で問題解決をしていく力です。子どもの頃から問題解決力を身につけていけるよう育てられ方をしていないことが、若い人たちの物足りなさの原因なのではないか、と思うのです。

私が園長を務める保育園でも、子ども同士の小さなケンカに、親が自分の感情を優先させるかの如く、すぐに介入してしまうことがあります。親が介入することで親同士のわだかま

りもなくなり、あたかもいざこざが解決したかのように見えますが、当事者である子どもたちは置き去りにされたまま。

親に「ごめんなさいは！」といわれ、子どもは機械的に「ごめんなさい！」。相手の親には「ごめんなさいね。ちゃんと注意しておきますから...」。これでは、いつまでたっても子どもが自分自身で問題を解決していく力は育つはずがありませんね。子どもが「考える」というプロセスを親が無意識のうちに省略していることが、子どもが自ら育つ機会を奪い取っているというふうに思うのです。

では、どのようにすれば子どもが自ら考え、問題を解決して

いく力を育てていくことができるのでしょうか？とはいっても、難しく考える必要はありません。いつもよりほんの少し工夫するだけでいいのです。

考える力が簡単に身につく4つの方法

では、今日からできる、とても簡単な方法を4つお伝えしますね。

① 子どもの「なぜ? どうして?」という問いかけを大切にしましょう。

子どもの疑問や問いを受け流すような生返事をするのではなく、まずは、子ども自身が「その理由を考える」機会を与えてみましょう。小学生ぐら

いになれば親が分からないこと、答えられないような疑問も出てくるでしょう。その時はぜひ、「お父さん、お母さんも勉強するね」と親子でいっしょに調べてみてください。

② 「これからどうしたら良いのか?」を子どもから引き出してみましょう。

次は、子どもの考えを引きます。まずここにチャレンジしてみましょう。ここでの合言葉は「それで? それから?」です。自分自身で答えを考え出した後、考えを掘り下げていたりする練習をし、子どもが思っていることをどんどん引き出していくのです。幼児の場合は、親子でいっしょに考えてみることで。大人がフォローを入れつつ、じっくりと考えるクセをつけていきましょう。

③ 簡易なことは、子どもに決定権を与えましょう。

「どっちでもいい」「なんで

もいい」。コレ、我が家の禁句なんです。選択権を与えられて自分の想いを伝える機会があるのに、それを安易に放棄しているからです。自分の価値観を押し付けて、自己主張することを好ましいとは思いませんが、普段から自分の想いや考えを人に分かるようにきちんと伝えていく機会を与えていくことも大切だと思います。

④ 新しく便利なものを、すぐに買い与えないようにしましょう。

便利な世の中になりました。しかし、これは子どもから考える力を奪って行くのではないかと危惧しています。不慣れなものを、どうすれば便利に使うことができるのか。これがダメなら代替できるものはないのだろうか。「工夫」することから、考える楽しさを育てていきましょう。

さて余談ですが、もう大人に

なってしまう私たちも生活していくうえで問題解決力が必要な場合がありますね。そんな時に役立つのが、次の2冊の本です。『世界一やさしい問題解決の授業』は問題解決の基礎を教えてください、『自分の答えのつくりかた』では、どのように考えて行動していくべきなのかを楽しく学ぶことができます。

子どもの想いを「聞く」ことから始め、「聴く」ようになることで、子どもの生きる力の形成に「効く」ようになってくるのだと確信しています。



世界一やさしい問題解決の授業
ダイヤモンド社
渡辺健介 著
定価 1,260円(税込)



自分の答えのつくりかた
ダイヤモンド社
渡辺健介 著
定価 1,680円(税込)



知りたいこといっぱい!